

科目区分	専門分野	科目名	成人看護学概論	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(15時間)	学期	第2学期
担当講師	田村 智子(臨床経験11年、教育経験12年)				
科目目標	ライフサイクルにおける成人期の特徴、および成人看護の機能と役割を理解する。				
授業計画	<p>第1回 成人と生活 (講義)</p> <p>1. 対象理解: 大人になること、大人であること</p> <p>2. 対象の生活: 働いて生活を営むこと</p> <p>第2回 生活と健康 (講義)</p> <p>1. 成人を取り巻く環境と生活の状況</p> <p>2. 生活と健康はぐくむシステム</p> <p>第3回 ヘルスプロモーションと看護(講義)</p> <p>1. ヘルスプロモーションと看護</p> <p>2. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動</p> <p>3. 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護</p> <p>第4回 健康をおびやかす要因と看護(講義)</p> <p>1. 健康バランスの構成要素</p> <p>2. 健康バランスに影響を及ぼす要因</p> <p>3. 生活行動がもたらす健康問題とその予防</p> <p>第5回 成人への看護アプローチの基本</p> <p>1. 生活の中で健康行動を生みはぐくむ援助</p> <p>2. 症状マネジメント</p> <p>3. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係</p> <p>4. 集団の調和や変化を促す看護アプローチ</p> <p>5. チームアプローチ</p> <p>7. 看護におけるマネジメント</p> <p>8. 看護実践における倫理的判断</p> <p>9. 意思決定支援</p> <p>10. 家族支援</p>	<p>第6・7回 健康障害のレベルと看護 (講義・演習)</p> <p>1. 健康障害のレベルとしての「経過」について</p> <p>2. 健康障害のレベルに応じた看護について</p> <p>1) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護</p> <p>2) 慢性病とともに生きる人を支える看護</p> <p>3) 障害がある人の生活とリハビリテーション</p> <p>4) 人生の最後のときを支える看護</p> <p>3. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援</p> <p>4. 新たな治療法・先端医療と看護</p> <p>第8回 終了試験</p>			
評価方法	筆記試験、課題レポート				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 ※参考文献は必要時提示する 厚生省の指標 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会				
講師からのメッセージ	成人看護学全般に関わる基礎理論として位置づける。生態系や社会の動向をふまえたうえで、成人期にある生活する対象を、発達段階・健康障害レベルの特徴に応じて身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えられるように学習する。ライフサイクルにおける成人各期の特徴は、個人ワークやグループワークにて主体的学習を基本とし、調べる、考えることから自ら学びを深める学習を期待する。国家試験出題基準を確認し学習すること。				